



「如己愛人」

この言葉は、永井隆博士が大切にしていた言葉です。永井博士は、長崎大学病院で被爆し、自ら病床の身でありながら倒れるまで人命救助と医学の発展に尽くした長崎を代表する偉人です。

本日、3～6年生対象に被爆体験講話を実施しました。今年度の講師として、山里小のそばにある永井隆記念館館長の永井徳三郎先生をお招きしました。徳三郎先生は、永井博士のお孫さんにあたります。ですので、今年度は、被爆体験でなく家族証言講話としての実施となりました。

徳三郎先生は、父である永井博士の子、誠一（まこと）さんや叔母の茅乃（かやの）さんの遺志を引き継いで各校で家族証言講話を行っているそうです。

講話を聞いた代表の6年生は、「永井博士は、自らも被爆し、病気でも被爆した患者を救うために命をかけていたことが心に残った。私も将来、人のためになることをしたい。」と感想を述べました。

徳三郎先生は最後に、世界平和という大きな目標を目指すよりは、身近なところ（家族や学校）から小さな平和をつくることを目指してほしいとおっしゃいました。そして「心優しく 命を大切に 支え合い 助け合う気持ち」をずっともち続けましょう。それは、永井隆博士が大切にしていた言葉「如己愛人（おのれのごとくひとをあいせよ）」につながりますと。

来週から「高尾っ子の心を見つめる教育週間」です。徳三郎先生からいただいた言葉を子供たちと一緒に実践していきます。

高尾小学校 校長 原口徹弥